

学校教育目標	自ら学び、考え、判断して実行し、ともに生きる東っ子
目指す学校像	○夢の実現のため『確かな学力』を身につけ、『主体的に考え行動する力』をはぐくむ学校(エージェンシー) ○東小にかかわるすべての人が笑顔になる学校(Well-being) ○みんなの学校(児童・教職員・保護者・地域)(コミュニティ・スクール)
重点目標	1 20年後のエージェンシーを育む確かな学力の育成 2 ゆめが安心して語り合える居場所を保证する教育支援・相談体制・生徒指導の充実 3 地域と児童が共に元気になるコミュニティ・スクールの推進 4 安心・安全な教育活動の推進と環境整備 5 誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる教職員の資質向上と働き方改革の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価					年度評価		学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価		実施日令和8年2月18日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○学力学習状況調査では、概ね良好な結果であるが、更に伸ばせる点も見られる。 ○日頃の学習の様子から体験的な学習や調べたり、プレゼンテーションしたりする学習には意欲的に取り組む児童が多い。 <課題> ○短時間で中・長文の文章を読み取り、問題の意味を理解したり、短い文章で表現したりする力に課題がある。 ○令和の日本型学校教育の理解を深め、タブレットを効果的に活用した授業、主体的対話的で深い学びの授業など今までの一斉授業を含め良き学びのための授業法を増やす。	・主体的・対話的で深い学びに必要な基礎学力の向上 ・学ぶ楽しさを実感する探究型授業の実現とワクワクする教科横断的な教育課程の編成	①全学調、市学調を全職員で分析し、より向上させるための授業改善を検討し、実践する。また、実践状況を全体で共有する。【読み・書き・伝える・計算等】 ②全授業者が個の課題を設定し、学校課題研究を生かして「学び方」「教え方」を改革した授業を実践する。 ③夢に繋がるワクワクする事業を実施する。(天体観望会/宇宙授業/東っ子まつり/学年の実態に則した夢に繋がる外部講師の招致)	①市学調の国算理社の結果が昨年度並みとなっているか。また、児童の意識調査で学びに向かう力が昨年度並みとなっているか。 ②全授業者が管理職や指導者による参観及び指導を受ける。また教員アンケートで関連する項目の肯定的な回答が90%となったか。 ③事業参加者の満足度90%となったか。また、各学年での外部講師招致による児童の変容があったか。	①さいたま市学習状況調査における国算理社の結果が昨年度比回答率で概ね上回った。また、児童の意識調査と学びに向かう力に関する項目については、4教科すべて、数値が昨年度データを上回っている。 ②学校課題研修に位置付けて実施し、学校評価アンケートでは、97%の肯定的な回答が得られた。 ③各事業の満足度は、天体観望会100%、宇宙授業は、「理科宇宙授業4年生」100%、「天文学者を招致」94%、「ISSにロケットで集合写真を届ける」92%であった。	A	さいたま市学習状況調査や全国学力状況調査の結果の分析及び授業改善の観点をもって研修等を通じて問題を分析することで、基礎基本の定着並びに「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現を図る必要がある。 学校課題研修や相互の授業参観等を通じて、「学び方」、「教え方」を改革する授業を展開していく。また、継続して、夢に繋がるワクワクする授業を実施する。本物に触れる機会を大切に、積極的に外部講師を招聘するなどして、子どもたちの夢が広がる事業を展開していく。
2	<現状> ○地域の学校への関心は高く、常時、多くの方が防犯ボランティアとして見守りを行っている。 <課題> ○学校の教育活動を保護者、地域に様々な手段で伝え、学校への関心を高め、「共育」を進める ○学校運営協議会についての認知度が低い(58%の保護者が知らない)と回答)	・情報発信や学校公開の推進 ・学校運営協議会の活動の見える化	①学校ブログ・安心メール、各配付物で児童や学校の様子を適宜発信する。 ②学校教育活動公開、授業公開、週2回の地域巡回を進めface to faceの対話に努める。	①4月から12月までのブログアクセス数が昨年度(29,865件)の3割増(38,824件)となったか。 ②学校教育活動公開、授業公開の満足度が8割となったか。地域巡回を週2回行えたか。	①さいたま市学習状況調査における「自分には良い所がある」の項目で、6学年中、4学年が市の平均を上回っていた。 ②本年度Solaルームを利用した子について肯定的な行動変容が見られるか。	A	引き続き、学校の様子や活動の様子を発信することと合わせて、土曜の授業公開など、広く地域や保護者の方に学校の様子を知ってもらう機会を設ける。
3	<現状> ○屋上防水、校庭・プールの配管、トイレ等の老朽化や、児童数増加に伴う教室増等、その都度、工夫しながら対応している現状がある。 <課題> ○リフレッシュ工事の延期に伴い、修繕に関しては目今の対応が求められており、関係機関との連携をより図っていく。	・迅速な修繕個所の対応 ・学び方、働き方に関わる教育環境の整備	①修繕対応が必要な箇所は関係機関と調整し、対応の早期化を図る。 ②安全第一の関係から、校内巡視(毎日)、安全点検(毎月)を徹底する。(通年)	①水回りに関する課題について関係機関との連絡調整を丁寧に行ったか。 ②修繕個所の早期発見、早期対応が適切に行われたか。	①依頼された修繕について、長期修繕対象以外は、都度の修繕を行った。 ②安全点検の実施により早期発見、また、担任からの訴えに応じて対応した。	A	学校施設管理課と調整を行いながら、学校予算の計画的な執行と合わせて、破損個所の発生予防、早期発見に安全点検等スムーズに対応していく。
4	<現状> ○教職員の個の課題を明らかにし課題解決に向けた全体研修を行っている。 ○ICT機器に長けた職員が多く積極的にICTを使用して業務を遂行している。 <課題> ○「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体化について授業改善を図っていく目的は共有されているが、具体的な方策について時間を要している。	・「教師の学びと児童の学びの相似形」の実現(自走する研修) ・業務改善を進め、授業準備や子どもと向き合う時間の充実	①教師間の学び合いなど職員室文化の醸成を図る。 ②本発表(1月)に向けて、研究主題をもとに自ら学ぶ研修の実現と授業改善を行う。	①自発的に授業を見せ合い議論する場がグループごとに見られたか。 ②学校課題研究本発表(1月)の本校教職員満足度90%となったか。	①2学期以降、ラーニンググループをベースにした相互授業参観を実施した。 ②研修における本校教職員の満足度は、97%であり、研究発表会では参観者、及び指導者から賞賛の声を多く頂いた。	A	先生方が忙しく働いている状況も十分理解できる。授業だけでなく、保護者対応やあらゆることに関わらなければならない状況も大変と思われる。ただ、地域とのコミュニケーションや顔が見える関係も必要だと感じる。より交流や話ができる環境や機会を作っていくとよい。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

学校評価アンケートや各行事実施後に実施したアンケートなど、各結果から児童の学びが主体的な学びとなるように実施されている。授業参観等からも子どもたちは生き生きと学んでいる様子が見られる。
 タブレットの活用が進んでいく中、一辺倒にならないように、バランスをよく考えて、活用を進めていけるとよい。

実際にいじめがあった場合の対応や学校でトラブルがあった際にどのような場合に家庭連絡がくるのかなどの情報が知れるとよい。
 教科に対する好き嫌いについて、必ずしも結果と正比例とはならず、理想として教科が好き、点数が高くなってほしい。
 登校時に元気に挨拶ができてくる児童も多い。保護者も含めて、大人が進んで挨拶ができるとうい。

学校運営協議会の認知が低いのは残念なことである。子どもたちを含めた議論などの機会を増やしていかないとよい。また、通学路点検などの活動を学校運営協議会やコミュニティ・スクールの活動として取り入れることができるのではないかと。今後、育成会やPTA、学校なども連携して取り組めるとよい。

子どもたちが学ぶ環境や職員が働く環境は、改善が必要である。屋上や外壁修繕がなかなか進まないところがある。学校運営協議会や地域としても働きかけができることは行ってきたい。

